

月報

105

発行所

青丘文庫

編集・発行★電話
〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1
メゾンド青丘ビル2F
TEL (078) 734-5989
FAX (078) 735-0688

韓国語の発音

中西智子

「韓国語の発音は難しい」

これが一九九四年八月から翌年六月までの十カ月、韓国延世大学の語学堂で韓国語を勉強した私の感想です。

韓国に行く前、私は約五年間韓国語の勉強をしました。最初はラジオ講座で文法を勉強し、それから語学教室にも通い、大学内で留学生に会えば、なるべく韓国語で話し、少しでも韓国語を使ってみよう努めました。ある留学生は私の話す片言の韓国語を「ソウルマル（ソウル言葉）です」と言い、そのために私は韓国語の発音については別に問題が無いように思っていました。このような私の考えを変えたのは、下宿のアジュンマ（おばちゃん）の次のような一言でした。（私の話す韓国語を聞いて）「最初の頃、韓国語と思わなかった」。

語学堂の先生によれば、日本語は韓国語に比べて抑揚の幅が大きく、日本人はその抑揚をもって韓国語を話すので不自然に聞こえるそうです。それから日本人に難しいのはmとnとngの発音です。例えば「冷麺（naeng-myŏn）」のngを、日

本人は意識しなければngの後ろのmの音に引きずられてmと発音しがちです。日本語では「ん」ひとつしかない発音も韓国語ではmとnとngとに厳密に区別し、それは同時に意味の違いでもあります。

発音は難しいですが、韓国語の音は美しいと思います。よく言われることですが、特にソウルの若い女性の話す韓国語は美しいです。私は以前にラジオ講座で、若い女性のゲストが「공양에 어떻게」

（空港にはどのように行けばいいですか）という例文を発音するのを聞いた時、その音の心地よさにゾクゾクとして鳥肌が立った経験があります。どの音にゾクゾクしたのかというと、その「卵」の音にまるで鳥の羽毛でふわりとなでられたような感じがしたのです。こんなことがあるものだろうかと不思議に思っていますと、長璋吉『私の朝鮮語小辞典—ソウル遊学記—』（河出文庫、一九八五年）の中にも同様の体験が書いてあり、やはり韓国語の音には人を感動させる不思議な魅力があるのだと私は納得しました。

このような魅力のある韓国語を、たとえ人をゾクゾクさせるところまでは無理にしても、少しでも上手に話せるようになりたい。そういう思いで、今日も私は韓国語の勉強のため机に向かっています。

朝鮮民族運動史研究会 第一四七回例会

東亜連盟運動と朝鮮・朝鮮人

松田 利彦

日中戦争の勃発以降あらわれた「東亜新秩序論」の中でも、石原莞爾によって唱えられた東亜連盟論は中国ナショナリズムを一定認めた点で、比較的「健全」な理論だったと評価される。本報告は、東亜連盟論が朝鮮問題にかなり関心を寄せたこと、また、それに共鳴した朝鮮人も実際にいたことに注目した。

東亜連盟論が唱えはじめられた一九三三年頃は、石原の朝鮮問題への関心は乏しかったが、三七年「満洲」(以下括弧を省略)に赴任して以来、朝鮮統治批判が現れ満洲国朝鮮人官吏の中に共鳴者も見いだした。とはいえそれは初期の運動テキストには反映されていない。

東亜連盟論において朝鮮論が本格的に形成されたのは、石原が日本で運動に本腰をいれ、朝鮮人と接触をもった一九三九年初め以降だった。この時期、第一に、在日朝鮮人に対する処遇や植民地朝鮮での内鮮一体化政策の抱える問題点の改善を訴えた。第二に、朝鮮「自治」論を唱えた。これは、植民地朝鮮の行政諸機関内部での朝鮮人官僚の比重を高めようというものと推測されるが、朝鮮人の根深い独立願望を容認するかのような装いをもっており、一部朝鮮人知識人を眩惑した。実際には「自治」論と朝鮮独立とは相いれるものではなかった。

一九四一年初頭以降、東亜連盟運動に対し政府が圧力をかけ、言論界・植民地当局などからもその朝鮮論への批判が投げかけられると、朝鮮独立を抑止する論点が強

調され、朝鮮支配政策批判も後退した。

このような東亜連盟運動に朝鮮人が加わり組織的運動を行った事例は、朝鮮と京都でみられる。朝鮮半島では、一九三九年頃から東亜連盟論への関心が高まり、同年初めには姜永錫等によって光州に東亜協和理念研究所設立委員会が組織され、同年夏、ソウルの東洋之光社を拠点として秘密組織「東亜連盟朝鮮本部」も結成されたという。八名の構成員には、東亜日報関係者のほか、姜永錫、兪鎮熙、金龍濟ら転向マルクス主義者がいた。彼らは、現実を変革しえない挫折感から東亜連盟論の「自治」論に朝鮮独立の展望を見いだそうとしたように思われる。しかし、朝鮮総督府警務局は四〇年春東亜連盟運動を民族主義運動への転化の恐れから禁止しており、十分な活動はできなかった。

その点、京都における運動はより広い影響力をもった。中心人物の曹寧柱は京大、立命館大で左翼運動をした経験をもち、三九年末頃から、趙恩済、梁麟鉉ら京都諸大学の留学生運動の指導者を運動に引き入れた。彼らは、四〇年にはいると、同志社大・立命館大の学友会長および全京都朝鮮人学友会長となり、機会を捉えては留学生に東亜連盟論を宣伝した。しかし、留学生の中には懐疑的な者もいたし、より先鋭な運動を組織しようとした者もいた。結局、一九四二年三、四月に曹寧柱ら六名が檢舉され運動は終わった。曹寧柱は、戦後、民団幹部(後団長)をつとめるかたわら、石原を敬慕する文章をいくつか残している。

大阪の国際化と民族関係をめぐっての一考察
就労、就職過程と教育を中心として

足助 安章

今日在日外国人の生活保障、教育といった問題は、新たな外国人来住者層のひろがりもあって、諸制度の充実がはかられつつある。とりわけ大阪府を中心として教育指針、教育方針の制度化がなされ、それを受けた形で教育現場では、1992年に大阪府在日外国人教育研究協議会が結成され、各市町村でも教育研究団体が結成され続けている。その結果全体的に在日外国人教育について充実に近づいていると考えられるが、その場合基調はオールドカマー在日朝鮮人についてのこれまでの経験で蓄積した事を、外国人教育の基本的な視点として育てていこうとしつつあると考えられる。

しかし一方で現代的課題も多い。一例を就職問題で示すならば、教育と社会をとりむすぶ就職差別などについての問題化状況の背景が問われなければならないと考える。就職差別として問題化されてきた状況の背景に、若年層を中心とした近代産業、大企業、公務員などの就職差別、内部労働市場への参入障壁問題があるが、他方歴史的に形成されてきた広大な被差別の外部労働市場の存在がある。こうした外部労働市場に位置づけられた非熟練、未熟練労働者が、現在も教育を受けている。例えば夜間中学生であり、定時制高校生等である。就職差別についての教育現場での対応には、こういった全体認識はほとんどの場合欠落している。それゆえ近代セクターの変容、産業化命題についての意識は、情報化、国際化として教育制度にのりやすく中心的価値をもつことに対して、他方でニューカマーなどの識字教育等の人権保障については、周辺部分として教育政策がほとんど見落し欠落していく領域として特徴づけられる。例えばこの問題は、大阪府の学校教育現場では、理数科、国際教養科等のコース編成であり、これらに対する夜間中学の歴史である。識字問題で考えると夜間中学が在日外国人集住地域に必要であったにも拘らず、なぜその地域にはないのかといった事、この事はつまるところ、かつて解放運動で指摘された越境入学問題が課題とした地域における教育水準の平準化の問題でもあった。その結果現在でも生野区や東大阪地域では、夜間中学校増設が課題となっている。こういった学校では、外国人生徒が多数になってきている。そして彼等の在学保障と定時制高校の生徒減少の結果が結びつき、定時制高校での受け入れが一般的になりつつある。なお定時制高校では生徒がアルバイト等によって生活を支え、転職体験の多さなど彼等の不安定就労の実態がある。つまるところ学校その変容の過程が現在の国際化の全体像を描きだす場ともなっているのである。

そしてこうした在日朝鮮人問題の延長に、ニューカマーの問題が連続している。大阪では今年度、中国帰国者の子供達が大阪外国語大学特別入試枠で入学試験を受けたが、その面接時に教員の差別発言がおこった。こうした制度が現在比較的少数の国公立大学にしか存在しない状況でこの発言は、大学側がその事実を否定していく言説の構図にもかかわらず、受験当事者にとってはこういった制度の本旨である帰属による不合理を解決する為の出発点における平等の政策が形骸化することを意味している。それゆえこういった制度の背後にある実質的平等といった理念が関係者に共有化されるためにも、こ

次のページへ

ういった制度が拡充されなければならないのである。

そして大阪ではエスニック、グループ内部の分化がおこりつつある。とりわけ在日朝鮮人については、来日時期によってサブエスニックグループ化しつつある事が集住地域での聞き取りなどによって浮かびつつある。少数事例からどこまでそういった事実に具体的にせまりうるかは今後の課題であるが、全体社会対象の調査ではこういった少数者の調査がほぼ不可能であると考えられる以上、ひとまず夜間中学、定時制高校等がエスニックグループと分かちがたく結びついている事、様々な国の外国人が、層として教育対象となりつつある事、彼等の就学は、就労、就職の労働市場問題と関連している事、そういった関係を認識することの意義は大きいと考えている。

研究会御案内

合同研究会

日時 1995年12月17日(日)

※朝鮮民族運動史研究会 第148回例会

時間 午後1時～3時

報告者 李 修京氏

テーマ 「朝鮮人のクラルテ運動」

※在日朝鮮人運動史研究会 第178回例会

時間 午後3時半～5時半

報告者 金 英達氏

テーマ 「創氏改名の法則と実績統計の分析
—どこに強制があったのか—

◆場所は青丘文庫にて